

平成31年度 学校経営要綱

1 学校教育目標

(1) 学校教育目標

**ふるさと矢部を愛し、未来を拓く学力と健康な体を持ち、共に伸びる児童の育成
～ 学校・家庭・地域をつなぐ『総がかりの教育』の推進 ～**

(2) めざす学校像

- 学ぶ環境が整備され、温かくも、整然とした秩序ある学校
- 「善遊善学」の精神に照らし、基礎基本の学力を育むことにより、多様で豊かな体験活動を展開する学校
- 矢部村の伝統文化を大切にしつつ、未来に向かって羽ばたくための豊かな力を育む学校
- 子ども達の活動を中心に、矢部村の人々が子どもへの支援や自身の学びのために集まる学校

(3) めざす児童像

- 共に伸びる児童 (徳) 仲間や地域を大切にするために力を合わせる児童
- よく学ぶ児童 (知) よく考え、よく学び、よいことを実行に移す児童
- 健康な児童 (体) よく体を動かし、困難な課題に向かって辛抱強く取り組む児童

(4) めざす教職員像

- 矢部地区の「ひと・もの・こと」についてよく見聞きして理解し、使命感と情熱を持った職員
- 豊かな人間性と高い規範意識を持ち、行動目標を明確にした協調性豊かな教職員
- 生徒指導力、授業力、学級経営力の錬磨に意欲あり、学校経営参画意識の高い教職員

(5) めざす家庭像

- 子どもの基本的な生活習慣を育み、温かさでコミュニケーションを大切にする保護者
- 学校と協働して矢部村全体の子育てを遂行する意思と実践力のある保護者

(6) めざす地域像

- 「矢部村総がかりの子育て」を自覚して、子どもに目配りをする地域
- 地域行事を自律的に実践し、子どもに自助・共助の精神や社会性を教える地域
- 学校関係者評価委員会や学校行事を通して、子どもの育ちを支援する地域

2 学校の教育理念 「善遊善学」 ～よく遊び、よく学ぶ～

3 中期目標

2020年4月の義務教育学校の設置に向けて、確かな知識・技能を身に付け、他者と協働して問題解決する子どもの育成

次期学習指導要領において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、確かな学力・豊かな心・健やかな体のバランスのとれた「生きる力」の育成をめざすことが示されている。また、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成は、学校教育を通じて、相互に関連し合いながら一体的に実現されるものであると、述べられている。

また、深い学びを実現するためには、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学習の過程を重視した学習の充実を図る必要がある。

そこで、本校においては、学習集団が少人数という特色を活かして、一人一人の児童の学習状況に応じた細やかな指導を行うことにより、基礎的・基本的な知識と技能を確実に定着させる。そして、学ぶことに興味や関心を持たせたり、自他の考えを基に思考を働かせる発問や手立てを提示したりすることにより、見方・考え方を働かせてよりよく問題解決する力を育成することをめざして、本中期目標を設定する。この中期目標を達成するためには、思いやりの心と健やかな体の育成が基盤となる。

4 教育課題及び経営課題

(1) 教育課題

- 学習内容の確実な定着
- 考えの狭さ、浅さの克服
- 自己肯定感と共感的な人間関係の育成
- 矢部小の歴史と伝統を受け継ぐ意識の醸成
- ふるさと矢部を愛する心の育成

(2) 経営課題

- 矢部小中統合のメリットを活用した取組の推進
- 義務教育9年間を見通した教育課程の編成
- 矢部小学校と矢部中学校教職員のコミュニケーションの活性化
- 矢部小、矢部中における教育活動の円滑な推進
- 授業三則を具体化した「考えを深める授業」の充実
- いじめ、不登校を防止する組織的な対応の推進

5 重点目標

重点目標1 やさしい言葉で、自分や友だちを大切にする子どもの育成

重点目標2 べん強したことをしっかり身につけ、考えを深め合う子どもの育成

<重点目標1>

昨年度、児童は明るく元気にあいさつし、地域の方からもたくさん誉めていただいた。しかし、自分や友達を大切にすることについては、友達のことを隠したり、友達を仲間外しにしたりする言動が見られた。そこで、明るいあいさつができる児童のよさを、他者とのコミュニケーションのスタートとして、やさしい言葉によって共感的な人間関係を築き、よりよい学校生活を送ることができるようにする。

「言霊」(ことだま)という言葉があるように、言葉には、その言葉を使う人の心(魂)が宿り、その心が相手に伝わる。つまり、児童一人一人がやさしい言葉を使おうと努力し、そのことが相手に伝わることによって、相手との友情や思いやりの心が醸成されていく。このことは、本校における道徳教育の基本方針であり、児童の自己肯定感を育成する方策となる。また、共感的な人間関係や自己肯定感、学習意欲や学力向上の基盤であり、重点目標2の達成に不可欠である。

<重点目標2>

昨年度の全国学力調査や福岡県学力調査、チャレンジテストにおいては、全ての教科において全国平均や福岡県の平均正答率を上回っていた。また、標準学力調査においても、全学年・全教科において、正答率は全国平均を上回り、学習内容の定着状況は概ね良好である。しかし、授業場面では、本校は児童が少ないために、児童の考えに多様性が少ない、交流場面における発言が一部の児童に限られる、考えを交流しても新たな着眼点が見いだせない、などの課題が見られた。

そこで、本年度も、基礎的・基本的な知識と技能を児童一人一人に定着させる取組を推進するとともに

に、各教科等の見方や考え方を働かせて児童の論理的思考力を育成する授業づくりや教育活動の推進をめざして、重点目標2を設定する。また、重点目標を達成する方策や達成状況の把握に当たっては、2020年4月に矢部小中学校が統合して義務教育学校として開校することを踏まえ、義務教育9年間を見通した教育課程の編成・実施・評価を行う。

6 達成状況の指標

<重点目標1について>

| 具体的な指標 | 数値目標・具体的な取組 | 評価者 | 時期 |
|----------------|--------------------------|----------|-----------|
| やさしい言葉の実践 | 全校集会での反省 児童アンケートで8割以上 | 児童 児童 | 毎月 年4回 |
| 自分にはよいところがある | 児童アンケートで8割以上 | 児童 | 年4回 |
| 友だちを大切にできる意識 | 児童アンケートで8割以上 | 児童 | 年4回 |
| やさしい言葉の実態 | 教師評価の平均が3.0以上 | 教師 | 年4回 |
| 友だちを大切にできる姿 | 教師評価の平均が3.0以上 | 教師 | 年4回 |
| いじめ防止対策委員会の定例化 | 月1回実施 | 教師 | 毎月 |
| ハイパーQテスト | 学級生活満足群の増加 | 教師 | 年2回 |

<重点目標2について>

| 具体的な指標 | 数値目標・具体的な取組 | 評価者 | 時期 |
|------------------|-----------------|-----|-----|
| わかる・できるという児童の意識 | 児童アンケートで8割以上 | 児童 | 年4回 |
| 自分の考えを書く・話す児童の意識 | 児童アンケートで8割以上 | 児童 | 年4回 |
| 授業三則の実践 | 週案に評価と考察の記入 | 教師 | 毎週 |
| 論理的に書く・話す力の育成 | 教師評価で平均が3.0以上 | 教師 | 年4回 |
| 単元末テスト | 80点以上の子どもが8割 | 教師 | 年4回 |
| 全国学力・学習状況調査(6年) | 国語115 算数105 | 調査 | 4月 |
| 福岡県学力調査(5年) | すべての科目で110以上 | 調査 | 6月 |
| チャレンジテスト(4年) | 福岡県平均以上 | 調査 | 12月 |
| 標準学力調査(全学年) | 全校で(国語+6)(算数±0) | 調査 | 12月 |

7 教育課程の編成方針

- ◎ 各教科等の教育課程を編成するに当たっては、基礎的基本的な知識と技能が確実に定着するよう工夫するとともに、論理的思考力が育成されるように努める。
- ◎ 教育課程の評価・改善や授業評価に当たっては、義務教育9年間の効果的な教育課程の編成の観点から、矢部中学校と共通した評価項目や評価方法で行う。
- 昨年度から新学習指導要領によって実施されている総則や道徳科・総合的な学習の時間・特別活動一部実施の外国語科・外国語活動及び、移行措置を確実に実施する。
- 矢部村の人や自然、伝統や文化を活用するとともに、「八女ふる里学」を教育課程に位置づける。
- 矢部小学校と矢部中学校の教職員全員で児童を育てる教科担任制や、第5・第6学年が矢部中学校で学習する教育活動が、円滑で効果的に実施できる指導計画を作成する。
- 重点目標が達成できるように重点教科及び領域を定め、授業時数の加配を行う。

(1) 重点教科及び領域と各教科等において育成する資質・能力

- 国語科・・・「読むこと」
- 算数科・・・「数と計算」 ※学力テストの結果を分析して内容を決定
- 体育科・・・第5・第6学年「スキー」 第3・第4学年「スケート」
第1・第2学年「雪遊び」
- ◎ 各教科等では、基礎的基本的な知識と技能の定着及び論理的思考力の育成を図る。
特に、論理的思考力の育成については、三角ロジック（主張・根拠・理由付け）を使って記述したり、発言したりする力の育成をめざす。

(2) 指導体制の充実

- 事務職員の職員定数を変更した教諭を活用して、第5・第6学年は単学年指導とする。
- 主幹教諭及び、第1学年担任・第2学年担任を活用して、第3・第4学年の国語・社会・算数・理科は単学年指導とする。
- 第1学年と第2学年の道徳・音楽・図画工作・体育・学級活動は合同授業とする。
- 第3・第4学年と第5・第6学年の合同音楽、第5・第6学年の合同体育、第3学年と第4学年の外国語活動は、矢部中学校教員による専科授業とする。

(3) 特別の教科道徳

① 道徳教育の基本方針

特別の教科道徳の時間を要として本校の教育活動全体を通して道徳教育を推進し、道徳的価値の理解を基に自他共によりよく生きる生き方について考えることを通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲を育てる。

② 特別の教科道徳の重点内容項目

- ◎ A～希望と勇気・努力と強い意志 → 重点目標②
- ◎ B～友情・信頼 → 重点目標①
- C～伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 → ふるさと体験学習
- D～生命の尊さ → いじめの防止、人権・同和教育

③ 指導計画の作成

特別な教科道徳の指導計画の作成に当たっては、各教科等の学習内容やふるさと体験学習、及び学校行事等との関連を考慮した指導計画を作成する。

(4) 特別活動（学級活動）における話し合いスキルの育成

学級活動は、次期指導要領に基づいて全体計画及び、指導計画を作成する。学級活動の内容は、下記の3項目とする。

- ① 学級や学校における生活づくりへの参画
- ② 日常生活や学習への適用と自己の成長及び健康安全
- ③ 一人一人のキャリア形成と自己実現

学級活動や児童会活動の話合いにおいては、次の3つの段階を大切にする。また、特別活動で培った話合いのスキルは、教科等の学習でも活用し、話し合う力の向上を図る。

- 出し合う → 議題に対するアイデアを理由を示しながら発表し、学級全体で多様な意見を出す。
- くらべる → 出されたアイデアの中から、話合いの目的や決まっている条件などと照らし合わせて、よりよいものを検討する。
- 決める → それぞれのアイデアを尊重しながらも折り合いをつけて、学級全体で合意形成を図る。

(5) 総合的な学習の時間における指導の重点

- 総合的な学習の時間は、次期学習指導要領に基づいて全体計画及び指導計画を作成する。その際は、「ふるさと体験学習」（矢部の人や自然・伝統や文化）及び「八女ふる里学」を位置づける。
- プログラミング教育の推進については、平成30年度の年間指導計画の精選を図り、インターネット上のフリーソフト「プログラミン」や「スクラッチ」を使ってプログラミング的思考力やプログラミングの技能を育成する指導内容を3～6年生に位置づける。
- 第5・第6学年のプログラミング教育では、「スクラッチ」で作成したプログラムでエムボット（自動車型ロボット）を動かす学習を行う。

(6) 外国語科及び外国語活動

- 外国語科及び外国語活動は、次期学習指導要領に基づいて全体計画及び指導計画を作成する。その際、八女市教育委員会が作成した指導計画を活用する。

(7) ICT教育の推進

- 各教科等の学習活動の中で、表・グラフの作成（エクセル）やローマ字の学習（ワープロソフト）、収集した資料の提示（パワーポイント）などの学習で、タブレットを活用した学習を位置づける。
- 電子黒板を使って教材や写真を提示したり、電子教科書を活用したりする。

(8) 社会に開かれた教育課程

- 全児童が「ごぶん賞」（作文・詩）又は「世界こども愛樹祭」（絵・作文・木手紙）に応募できるよう意図的・計画的に指導する。また、児童の作品を地域ボランティア「パレット」に貸し出す。
- 矢部小学校の閉校に向けた取組を行う。

8 重点目標達成のための方策（経営の重点）

(1) 小中統合のメリットを活用した取組の推進

- 職員定数を変更した教諭を活用した第5・第6学年の単学年指導
- 第3・第4学年における単学年指導の実施（国語・社会・算数・理科）
- 矢部中学校教員による専科指導の実施
（第3～第6学年音楽、第5・第6学年体育、第3・第4学年外国語活動）

(2) 教育課程の編成とコミュニケーションの活性化

- 毎月の矢部中学校との教育課程検討委員会の実施
- 計画的な矢部中学校等の合同職員会議の実施
- 小中連携プロジェクト4部会の目標設定と計画的な実施
- 運動会、学習発表会、浮立発表、PTA説明会等の合同開催

(3) 学力向上をめざす組織的な取組

- 授業三則の実践～週案への位置づけ（計画・実施・評価）
 - 「必然性のあるめあてづくり」（課題発見力）
 - 「考えを深める発問づくり」（思考力・判断力）
 - 「三角ロジックの表現づくり」（論理的思考力・表現力）
- 論理的思考力を鍛える三角ロジック（主張・根拠・理由付け）を使った記述力や発言力の育成
- 小学生新聞の「天声こども語」を活用して自分の考えを主張・根拠・理由付けの三段階で書く活動の実施（第5・第6学年の家庭学習）
- 小中共通した授業評価（よい授業の因子・学習アンケート）の実施

(4) 授業三則及び三角ロジックと連動した主題研究

- 本年度の主題研修は、国語科の文学的文章と説明的文章の単元で実施する。
- 研究主題「確かな読みをつくる子どもを育てる国語科学習指導」
～考えを深める発問や手立ての工夫を通して～
- 授業研究に当たっては、指導案審議の簡略化・効率化を図る。指導案作成について指導助言を希望する場合は、研究主任又は主幹教諭の指導を要請する。
- 一般研修は、学習指導要領、生徒指導・いじめ防止、不祥事防止、道徳科、外国語科・外国語活動、プログラミング学習、電子機器の活用を行う。

(5) 学力向上検証改善サイクルに基づいた取組の推進

- 全教員による自校採点の実施と結果の考察及び改善策の共通理解
- 調査問題を活用した職員研修の実施
- 授業や家庭学習における調査問題の活用

(6) 家庭学習の充実

- 小中連携プロジェクトで作成した家庭学習の手引きの周知と活用
- 家庭学習の実態調査（家庭学習時間と内容）と保護者啓発
- 教師コメントの記入や家庭学習ノートの掲示、家庭学習努力賞の授与

(7) 補充学習の実施

- 月曜日の放課後に放課後学習を全学年で実施する。
- 夏季休業中の補充学習（3日）は、全児童を対象とする。
- 昼の活動では、15分間で実施・評価・記録ができるものを精選し、積み上げや成長が児童に見えるようにする。

(7) 重点目標達成状況の把握と改善

- 重点目標に沿った達成状況評価を5月、7月、12月、2月に実施する。
- 学校評価は全職員が参画し、分担に応じて結果の考察や改善策の提案を行う。

(8) 学級経営の充実

- やさしい言葉遣いについて、各学級の学級目標や個人目標を設定し、実践の状況を毎月自己評価させる。
- やさしい言葉遣いを年間を通して生活目標に設定し、毎月全校集会で反省する。
- 思いやりのある学習5項目の実践
「最後まで聞く」「まちがいを笑わない」「一緒に考える」「一緒に喜ぶ」「認め合う」の指導を徹底し、子どもが安心して学ぶ雰囲気醸成する。

(9) ふくおか鍛・ほめメソッドの実践

- 学校行事に当たっては、目標設定（自己決定）・実践（挑戦・励まし）・振り返り（認め合い）の過程を踏まえた実践を行う。
- 学校便りや学級便りにより、子どものよさを発信する。

(10) いじめ防止対策及び生徒指導の充実

- 学校いじめ防止基本方針を教職員・児童・保護者に周知徹底し、いじめの早期発見・早期対応を組織的に実行する。
- 日頃から児童理解に努め、温かい子どもとのコミュニケーションを通して信頼関係を築く。
- 月に1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、いじめアンケートの結果や教育相談の状況、日頃の観察で気づいたことを出し合い、共有する。

(11) 教育環境の充実

- 子どものよさや努力を認めるコメントや成長が分かる掲示・展示を行う。

(12) 社会に拓かれた教育課程の具体化

- 教科等の学習やふるさと体験学習で学んだり、考えたりしたことを絵や作文、詩などで表現し、水をテーマにした「ざぶん賞」（作文や詩）、木をテーマにした「世界子ども愛樹祭」（絵、木手紙、作文）に応募する。
- 地域ボランティア「パレット」が行っている児童の作品を堀川バス黒木待合室に掲示して地域住民に鑑賞してもらおう取組に協力する。